

Buddycomの導入理由

“**とにかくスマホ一つで
手軽になったという点が大きいです**”

介護

訪問介護の送迎



Buddycomを導入したことで、持ち物が軽くなったという声が多いです。以前使用していたトランシーバーは大きくて重いものだったので、Buddycomに切り替えてからかなり身軽になりました。

GPS機能付きではありましたが、月々2万円ほどコストがかかっていたことからBuddycomの導入でランニングコストが安くなったのも大きなポイントです。

またBuddycomでは、周辺機器の通話ボタンを一度押すと会話が可能になり、もう一度押すと終了できるので、運転しながらでも使用できるのが便利です。(以前は駐車して話す必要がありました。)

ドライバーと事務所間のスタッフ同士のコミュニケーションが以前よりスムーズにとれるようになり、業務が効率化されたことによって時間も節約できたので、以前より多く送迎をこなせるようになってきているかもしれません。無料トライアルから始めましたが、IDを発行して名前をつけて、そのまま設定を進めていくだけで、とてもシンプルでわかりやすく作られているため、特に躓くこともなく本導入できました。



導入前の課題

以前は、利用者の送迎をするドライバーと事務所との連絡手段として電話やメール、トランシーバーを使用していました。電話やメールを確認する際は一時停車する必要があり、手間でした。また、トランシーバーは大きくて高張るため持ち運びに不便でした。

導入した理由

トランシーバーの代わりになるようなものはないかとネットで検索をしたところ、Buddycomを見つけました。他のアプリも検討しましたが、問い合わせをした際の対応の良さからBuddycomを導入することにしました。また、動作が安定していることや、大手企業の利用事例が多いこともBuddycom導入の決め手になりました。



ドライバーと事務所 スタッフのコミュニケーション と位置情報の確認に利用

主に福祉有償運送の送迎でBuddycomを活用しています。利用者さんの自宅までお迎えに行き、車で病院までお連れして、病院が終わったと連絡があれば病院にお迎えに行き、お家まで送り届けるというのを繰り返しており、その際のスタッフ間の連絡手段としてBuddycomを利用しています。

事務所から「～さんの病院が終わりました」と連絡があると、事務所スタッフがMap機能で各ドライバーの位置情報を確認し、「～が今病院の近くにいるので向かってください」という指示を出したり、「あと10分くらいかかりそうなので、お待ちいただくように伝えてもらえますか？」と連絡するなど、主に事務所とドライバーとの会話のやりとりで使用しています。

他にも、トラブルや緊急時の際のドライバー同士のやりとりにも使用しています。リアルタイムでお互いの発言が大事なので、双方向の通話方式で話しています。



導入検討中の方へメッセージ

私たちがのような福祉有償運送を行っている会社は少なくなってきたのですが、これをきっかけに同じようなところでもBuddycomを使ってもらえればと思います。介護業界では今でもFAXを使用しているなどアナログな企業が多い現状ですが、Buddycomなどのアプリを使用して業務効率を上げることが重要になってくると思います。

